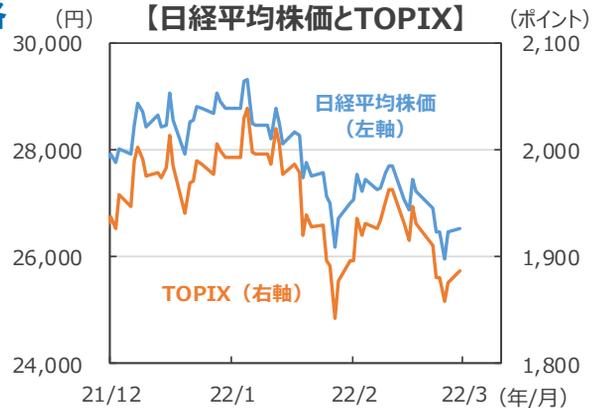




今日のトピック ウクライナ情勢下、切り返す日本株式市場 割安圏での値固めが進もう

ポイント1 ウクライナ情勢の緊迫化から下落 日経平均株価は2万6,000円割れ

- 2月最終週の日本株式市場は、TOPIXが前週比▲2.5%、日経平均株価が同▲2.4%と2週連続の下落となりました。ウクライナ情勢の緊迫化が主因で、日経平均株価は24日に2万5,970.82円と2万6,000円を割り込み、年初来安値を更新したものの、25日には緊張が一旦落ち着いたことなどから大幅に反騰するなど、激しい値動きとなりました。週明けの28日は、ロシアとウクライナの交戦が激化し、西側諸国がロシアの一部銀行を国際銀行間通信協会（SWIFT）から排除する新たな経済制裁が発表される中、堅調に推移しました。



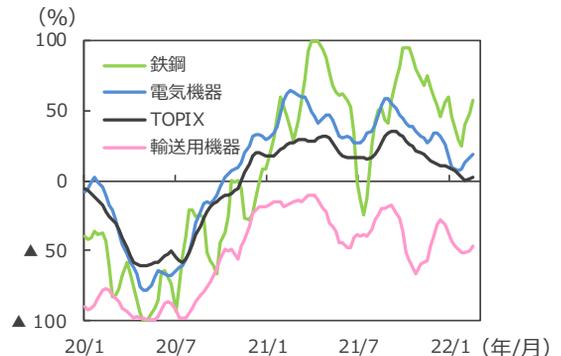
(注) データは2021年12月1日～2022年2月28日。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 業績回復期待は維持されている 景気敏感セクターの業績が上振れ

- 3月決算企業の10-12月期決算（TOPIX除く金融ベース）は当期利益が前年同期比+12.5%と堅調でした。1-3月期は外部環境が極めて不透明なため、業績への悪影響が懸念されますが、足元のリビジョン・インデックスを見る限りは堅調を維持しています。特に景気敏感セクターの鉄鋼の同インデックスは上振れており、機械なども好調です。電気機器や輸送用機器の同インデックスも反転し始めており、業績に対する期待が継続している点は安心材料です。

【主要セクターのリビジョン・インデックス】



(注) データは2020年1月9日～2022年2月17日。週次、4週移動平均。リビジョン・インデックス：当期利益のコンセンサス予想をベースに、(上方修正件数 - 下方修正件数) ÷ (上方修正件数 + 下方修正件数) で計算。当期利益は1年先、I/B/E/S予想。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 割安圏での値固めが進もう

- TOPIXは、ロシアによるウクライナ侵攻が伝えられた2月24日に日経平均株価と同様に下落しましたが、年初来安値を更新せずに踏みとどまりました。TOPIXは国内景気に対する期待から値固めが進んでいるとも考えられます。こうした局面下でTOPIXの12カ月先予想株価収益率は2月28日現在12.5倍です。2012年以降22年2月までの平均値マイナス1標準偏差は12.3倍で、これを一応の下値の目途とすると、足元のバリュエーションは割安圏にあると言えます。業績は総じて好調ですので、今後は割安圏での値固めが進むと考えられます。さらなる上昇には外部環境の安定が待たれ、引き続きウクライナ情勢や米国の物価と金融政策が注目されます。

ここもチェック! 2022年2月28日 ロシア・ウクライナ情勢を受けた世界経済・金融市場の見方の整理 2022年2月28日 ウクライナ情勢下、忍耐が求められる米国株式市場

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。